

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度 読みに困難さをもつ児童の実態に合わせた適切な支援機器等の選定方法及び指導法の検討
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	コミュニケーションの円滑化
	授業の目標	対象児に適応した支援機器の選定とコミュニケーションの円滑化
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (6)年 (1)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input checked="" type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input checked="" type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 対象児は全般的な知的機能は標準範囲内だが、発達性読み書き障がい認められ、ひらがなとカタカナの書字、漢字の音読と書字における正確性と、読みの流暢性に関して学習到達度が遅れている。発達性読み書き障がいの背景として、音韻能力および視覚認知力の弱さが考えられるため、音声教材による事前学習をすることで、文章の内容理解がすすむと考えられる。また、自分の考えを表現できるようにキーボード入力による文章表現の学習を行った。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input checked="" type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) ・コミュニケーションの円滑化をメインの目的として、iPadのアプリを活用する。 ・教科の学習支援として、より対象児童の実態に即した音声教材対を選定するためにいくつかの教材について紹介する。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	 ・Windowsタブレット→デジポッドでデジによって作製された教材に使用 ・Windows2in1機→リーダーでデジによって作成された教材に使用 ・iPad→コミュニケーションツールとして「Zen BrUSH」、「大人のぬりえ」等に使用 ・MacBook→会話の材料として使用 ・音声ペン付教科書→デジによって作製された教材との比較に使用
授業展開	授業展開・支援の手立て	  「Zen Brush」 「大人のぬりえ」 ・コミュニケーションの円滑化をメインの目的とした。対象児のメンタル面での困難を少しずつ改善していくための方法として各種支援機器等を多数用意し、新しい機器や環境にスムーズに慣れ、活用できる心身や環境を考え、試行を続けることとした。 ・アセスメントから音声教材が効果的とも評価されたので各ICT機器においてもデジによって作製された教材を含め他の音声・視覚教材も試行していく。 ・対象児童はデジポッドとリーダーの使い方と仕組は実感し
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・キーボードのことを引き継いでいたので、話をした。その中でローマ字は苦手。できない。という意味表示を聞くことができた。 ・50音キーボードのことも対象児童自ら話を聞いた。 ・ローマ字入力も含めて継続的に聞き取り、試行を続ける。 ・ローマ字習得のことを聞き取りが望ましいが、聞けるところは学校の先生からの聞き取りで補い、対象児の心的ストレスを増やさない必要があると思われる。 ・終始表情良く笑顔で取り組めた。